

2020 年度実施概要

学校名

洋野町立向田小学校

採択活動名

「向田と海洋のつながりを考えよう」

実施単元 ※実施した単元の数に応じて記載してください

単元名	学年	教科
1. 「森は海の恋人」(森林学習)	1～6年	総合, 生活
2. 「米づくり名人になろう」(地域産業体験)	1～6年	総合, 生活
3. 「海洋と関わりのある向田の森林, 地域についてまとめよう」	3～6年	総合

取り組みの概要

1 活動のねらい

久慈平岳の麓に暮らす子ども達が、「向田と海洋のつながりを考えよう」をテーマに、水、空気、養分の循環の学習を進めながら、地域への理解を深めるとともに、人の関わりや産業の成り立ちにも海洋とのつながりがあることに気付かせ、地域に対する愛情やほこりを高める。

2 実施内容

(1) 森林学習

ア 森林愛護少年団結団式(1～6年)

森林愛護少年団の結団式を行い、1年間の森林学習について見通しをもたせた。向田には自然があり、小学校も森林に囲まれている。この自然・森林を守ろうという意識を高めることができた。

イ 久慈平岳登山(1～6年)

久慈平岳登山を通し、クイズやゲームを行いながら森林観察活動をし、地元の山に対する理解と自然保護への気持ちをもたせた。気温の高い日だったので、木の陰に入ると涼しく感じ、自然のクーラーを感じる事ができた。

ウ 水生生物調査(3・4年)

久慈平岳の源流から流れ出る水が有家川に合流し、太平洋に流れ出ている。その有家川の水生生物を調査し、きれいな川に生息する生物を多く発見した。きれいな川・水を大切に、環境を守っていききたいという気持ちを高めることができた。

【講師】 県北広域振興局保健福祉環境部

エ 水質調査(5・6年)

昨年度、久慈平岳に源流がある有家川から、海藻や魚にとって重要な栄養素である「フェルム(鉄)」がフルボ酸と結合した状態で流れていることが分かったので、実際にパックテストを用いて有家川に流れる鉄分を測定した。実験を進める中で、雨が降った後に多く鉄分が流れていることに気付いた。

オ 久慈平岳源流探索(5・6年)

地域のゲストティーチャーの案内で、久慈平岳源流探索を行った。2か所案内していただき、とても澄んでいてきれいな水が流れていることに気付いた。晴れの日でも、水が流れ出し自然のダムの働きをしている森林についての理解を深めた。

【講師】 地域のゲストティーチャー

カ 森は巡る(3・4年)

洋野町の海洋教育事業である植林活動「森は巡る」に参加し、植林活動を行うことで森と海のつながりを理解するとともに、森林が生きていくうえで欠かせない酸素を作り出し、洪水を防ぐ役割を果たしていることに気付いた。



【水生生物調査】



【森は巡る】



【源流探索】

(2) 地域産業体験

ア 体験学習（1～6年）

久慈平岳源流から太平洋に流れている水を利用し、全校で稲作体験学習、豆腐づくりを行っている。地域の産業を理解するとともに、水のありがたさに気付くことができた。

- ・ 植ええ（4月）、田植え（5月）、稲刈り（9月）を行い、稲作を体験した。（1～6年）
- ・ 豆腐づくりについて、土地の様子や育て方などを調べたり、観察したりした。（3・4年）
- ・ 豆腐作りを体験した。（豆風鈴）（3・4年）

イ 木工作品制作

森林を活用した産業について調べ、地域の特産物で木工作品制作を、三本木木工の方を講師に体験し、木のありがたさについて触れることができた。また、体験学習を通して、地域の特産物や特産品について理解を深めるとともに地域を誇りに思う気持ちを高めることができた。（6年）



【豆腐づくり】



【木工作品制作】

3 学習したことの発信

ア 子どもサミット（6年）

「海洋教育こどもサミット」で、「森は海の恋人」森林学習について調べたり実験を繰り返したりして考察し、写真や図を用いながらパソコンを活用してまとめた。調べたことを発信しようとすることで向田と海のつながりについての理解もより深まった。

イ パンフレット

- ・ 3、4年生は、大豆栽培について調べたことや実際に育てて観察したこと、豆腐作りについて紹介するパンフレットを作成した。
- ・ 5、6年生は「森は海の恋人」について、1年間調べ追究してきたこと、調べ活動してきてわかったことを新聞形式にまとめた。

※ 学習したことを発達段階に合わせ、新聞やパンフレットの形式などでまとめることで、さらに学習を深めるとともに、表現力も高めることができた。

4 成果と課題

(1) 成果

ア 森林学習を通して、水や養分などの循環から海洋とのつながりを理解することができた。

イ 地域産業の学習を通して、地域の気候と産業、人材とのつながりについて理解を深めることができた。

(2) 課題

ア さらに児童一人一人の問題意識を高め、追究学習を目指していきたい。